

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02887

研究課題名(和文) 教師教育者のアイデンティティ形成と発達を基軸とした専門性開発に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Research of Professional Development on Identity Formation and Growth based Teacher Educator

研究代表者

岩田 昌太郎 (Iwata, Shotaro)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授

研究者番号：50433090

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、以下の2点である。成果1：「指導法に関する科目」に従事する教師教育者固有の悩みや葛藤の実態を専門的学習という観点から解明し、それを乗り越えていくための Professional Learning Community (PLC) の重要性を明らかにした。ただし、引き続き、教師教育者の専門職としてのアイデンティティの変容については縦断的な調査が必要であった。成果2：教師教育者の専門性開発のために、本研究の独自のFD/授業研究をプログラム化する中で、さらに広範的に適用できる方策を議論する必要性が明らかとなった。なお、本研究の成果である教師教育者育成プログラムの検証も今後必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究には、以下の3点の学術的意義や社会的意義があるであろう。第1に、教科教育学の体系に教師教育者教育という新たな領域を加えることができ、将来のわが国における教職大学院の拡充への貴重な示唆となる。第2に、これまで研究ベースの経験則と大学の研修事業(FD)に委ねられてきた教師教育者の育成を、エビデンス・ベースとした観点から合理化することができる。第3に、教師教育者を育成するプログラムやカリキュラムの提案を通して、教職課程を担当する大学教員や現職研修を支える教師教育者たちの質的改善に貢献することができる。

研究成果の概要(英文)：The outcomes of this study are the following two points. (1) The study elucidated the reality of the unique concerns and conflicts of teacher educators engaged in "curriculum and instruction methods" from the perspective of professional learning, and clarified the importance of Professional Learning Community (PLC) in overcoming these concerns and conflicts. However, a longitudinal study of the transformation of teacher educators' professional identities continued to be needed. (2) The need to discuss more broadly applicable strategies for teacher educators' professional development was evident in the programming of this study's original FD/lesson study. It is also necessary to validate the teacher educator development program that was the result of this study.

研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学、教師教育、授業研究

キーワード：体育科教育学 教師教育者 アイデンティティ 専門性開発 実証的研究

1. 研究開始当初の背景

いま、なぜ、教師教育者の資質能力なのか

近年、世界的な教師教育改革の渦中にあり、わが国においても教職大学院を含めた教職課程の質保証・向上が焦眉の課題となっている。そのような中、1970年代以降、欧米を中心に教育政策の改革に伴う教師教育への関心が高まり、さらに教師教育政策への議論が活発になされるようになった。しかしながら、わが国の教師教育改革においては危機的な状況として深刻化している(佐藤, 2015)。

そのような危機的な状況を打開してくれる存在が「教師教育者」である。教師を育てる「教師教育者」の質は、教師教育の質に依存するといっても過言ではない。その一方で、大半の教師教育者は、教師教育プログラムにおいて専門性開発に向けた支援やメンタリングをきちんと受けていない実態があるという(e.g., 岩田ほか, 2018; Kusahara and Iwata, 2021)。しかも、近年、教師教育者にどのような資質能力が求められているか<専門職基準>、そのための方略はどのようなになっているのか<教師教育者育成プログラム>など、教師教育者のアイデンティティ形成や発達過程が問われている。折しも、「教職課程担当教員の資質能力の向上(中教審答申, 2015)」の提言の元、具体的な方策が講じられなければ日本の教師教育改革(教職課程の質保証や現職研修の充実発展)は停滞化の一途を辿ることになることが危惧される。そのような中、本研究は、教師教育における喫緊の課題を解決するためのキーパーソンである「教師教育者(教職課程担当教員)の育成と成長」を解明していく斬新な研究として位置づけられる。

以上、教師教育改革を支える教師教育者(本研究では、教員養成における教職課程担当教員、現職研修における指導主事や指導助言者等を指す)の資質能力の向上は、将来の教育学や教科教育学が取り組むべき喫緊の課題であり、わが国に限らずグローバルなテーマであろう。

<引用文献>

中央教育審議会(2015) これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う

教員育成コミュニティの構築に向けて～. 文部科学省. 平成27年12月21日

岩田昌太郎・草原和博・川口広美(2018) 教師教育者の成長過程に関する質的研究—TAの経験はアイデンティティ形成にどのように影響を与えるか—. 日本教科教育学会 41(1): pp. 35-46.

Kusahara, K., and Iwata, S. (2021) 'Chapter 7 Teacher educators' professional development in Japan'. In: Vanderlinde, R., Smith, K., Murray, J. and Lunenberg, M. (Eds.) "Teacher Educators and their Professional Development: Learning from the past, looking to the future". Routledge: New York, pp.82-91.

佐藤学(2015) 専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン—. 岩波書店:東京.

各教科の固有性と共通性をどのように乗り越えるか

日本の教師教育研究において、各教科の固有性をどう捉え、教師教育の発展につなげていくかは重要なテーマ(例:教員養成におけるコアカリキュラムや架橋科目など)として取り上げられてきた。教師教育学会でも、「教師教育研究における教科別の分化」ではなく「教科固有の実践知と力量形成の共有」が提案されているように、各教科における教員の「固有性と共通性」が注目されている。しかしながら、博士課程後期の院生や教職大学院に新しく着任した実務家教員、そして教育委員会に急遽異動になった指導主事など、いわゆる日本における教師教育者の育成プログラムやその専門性基準が確立していないのが現状である。

このような背景をもとに、教師教育者たちが自律的に専門性開発を成し、専門職としてのアイデンティティ形成と発達に着手しながら、教職課程の質保証や現職研修の発展に寄与できるようなエビデンスを蓄積していかなければならない。

2. 研究の目的

本研究は、教師教育者のアイデンティティ形成と発達の過程を解明する中で、汎用的な教師教育者育成プログラムを開発することを目的とする。とりわけ、体育科教育を事例として実証していく。本研究では、核心をなす学術的な問いとして、以下の研究課題を3点設定した。

研究課題①：大学の教職課程に就職後，とりわけ「指導法に関する科目」に従事する教師教育者はどのような困難に直面し，それをどのように乗り越えていくか【専門職としてのアイデンティティ形成と発達の解明】

研究課題②：「教職コアカリキュラム」を意図したFDを開催し，お互いの実地視察を通して，教科教育と教科内容の担当教員が協働的に授業を構築し，省察しながら資質能力をどのように担保していくのか【協働的な教師教育者と質保証の方途】

研究課題③：上記の課題①②を解明し，日欧の先駆的な知見と比較検討を通して教師教育者育成プログラムの類型化や定型化をどのように策定していくのか【汎用的教師教育者育成プログラム】

3. 研究の方法

本研究は，研究期間内で所定の成果を得たい。ただし，本研究の採用が決定した時に，新型コロナウイルス感染症拡大の影響で，調査には大きな変更を迫られた。図1の研究組織のもと，研究計画・方法を以下に示すが，調査できたものとできなかったものを大別しながら，研究の方法を記述していく。

2020(令和2)年度【基礎調査期：教師教育者のアイデンティティ形成・発達過程】

- (1) 国内調査と国外調査のチームに分かれて，教師教育者のアイデンティティ形成に関する資料を収集した。もちろん，その2つのチーム間における交流研究会（基本的には，オンラインで実施）を開始し，教師教育者のアイデンティティ形成・発達過程についての実態調査を行った。
- (2) 教師教育者の育成に関する国内外の先行研究をレビューした。もちろん，研究協力者と協力して，モデル・カリキュラムとして日欧比較のための基礎データの調査した（文献研究を中心とした）。
- (3) 研究代表者は，教員養成から教職課程着任までの教師教育者育成のモデル・カリキュラムのための専門的学習とその専門性開発を暫定的に提言した。

2021(令和3)年度【評価・開発期：教師教育プログラムの提案】

- (1) 教師教育者の「教育力」と「研究力」を調査するため，前年度に作成したモデル的な育成プログラムにもとづいて，「指導法に関する科目」を相互に視察し合い，協議会を通してその確認した（緊急事態宣言とまん防の影響で，研究分担者の大学を1,2回訪ねるに留まった）。
- (2) 研究代表者と研究協力者（○）が協力して，暫定的なプログラムで学んで教職課程に従事している教師教育者の追跡（継続）調査の計画を立案した。研究代表者を中心として，動画にて記録するとともに，データの妥当性と信頼のために「仲間同士の検証」(メリアム, 2004)を行い，教師教育者としての成長過程を記述した。
- (3) 研究代表者と研究協力者（○）が協力して，教師教育者育成プログラムの開発のための基礎資料を整理した。

2022(令和4)年度【モデル・カリキュラム検証・評価期：妥当性と信頼性の担保】

- (1) 研究協力者（△）には，データ収集と整理の支援を継続的に実施した。

(2) 研究代表者と研究協力者(○)が協力して、開発した教師教育者育成プログラムを試行的に大学院生(博士課程後期)で検証した。第1に、2年間で蓄積されたデータの妥当性と信頼性を担保するために混合研究法(Creswell, 2009)を適用した。第2に、①②のデータを精査し、教師教育プログラムを評価し、改善を図った。①オランダ及びドイツを中心とした教師教育の「指導法に関する科目」に相当する授業を継続的に観察・記録した。

(3)一連の研究成果を、ATEE(ヨーロッパ教師教育協会)やWALSなどの関連学会でオンライン発表をした。

4. 研究成果

本研究成果について、研究課題①～に該当する研究業績(著書・学術論文・報告等)に即して列挙していく。

研究課題 【専門職としてのアイデンティティ形成と発達の解明】

ここでの成果は、大学の教職課程に就職後、「指導法に関する科目」に従事する教師教育者は、どのような困難に直面し、それをどのように乗り越えていくかといった側面である。とりわけ、「指導法に関する科目」に従事する日本の教師教育者の仕事や役割といった特徴や専門的な学習の内実に関するものが該当する。

<著書>

Kazuhiro Kusahara and Shotaro Iwata. Teacher educators' professional development in Japan. In Ruben Vanderlinde, Kari Smith, Jean Murray & Mieke Lunenberg. Teacher Educators and their Professional Development; Learning from the Past, Looking to the Future. Oxon & New York: Routledge. pp. 82-91. 2021-0527

岩田昌太郎(2020)「第1章第4節 体育の授業研究における教師教育者の役割」(pp.33-159)を分担執筆。木原成一郎・大後戸一樹ほか3名編著(2020)「体育授業のすゝめ」創文企画、2020年6月

岩田昌太郎(2020)「第8章 教師教育研究」(pp.126 - 132)。体育科教育学会編者「体育科教育学研究ハンドブック」大修館書店、2021年3月

岩田昌太郎・大城穂乃香(2022)「保健体育教師の社会正義論入門」体育科教育3月号、30-33。

研究課題 【協働的な教師教育者と質保証の方途】

ここでは、「教職コアカリキュラム」を意図したFDや授業研究を開催し、相互の実地視察や現職研修における教師教育者の省察や専門性開発の一端に関するものが該当する。

<論文・報告書等>

AodunQiqige, Iwata, S. and Hamamoto, A. (2022) Beginning Teacher Educators' Learning Experiences as Guidance Advisors in Physical Education Lesson Study. International Journal of Curriculum Development and Practice, 25(1):27-41. (査読あり)

Kakazu, K., Kobayashi, M. (2022) Student teachers' development through a first-time teaching practicum and challenges: A qualitative case study approach. Journal of Education for Teaching, 49(3):1-15. doi.org/10.1080/02607476.2022.2104629 (査読あり)

Shiraishi, T., Saito, K., Kuga, A. and Yamahira, Y. (2022) Factors that facilitate and obstruct the dissemination of physical education lesson study in Peru. International Journal for Lesson and Learning

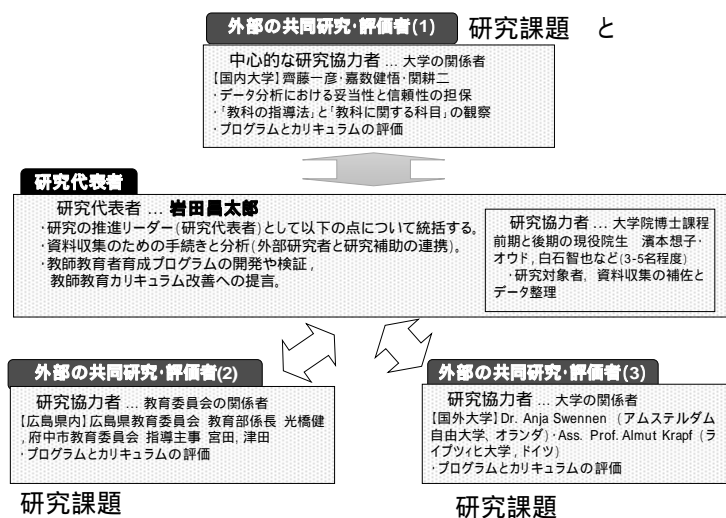


図1 研究組織と各調査の役割分担

- Studies, 11(4): 275-289. (査読有り)
- 敖敦其其格・岩田昌太郎・濱本想子(2021) 外国人研究者は日本の授業研究の観察から何に気づきどのように学ぶのか: 体育授業研究の観察を事例として. 日本教科教育学会誌, 44(1): 23-36. (査読あり)
- 濱本想子(2021) 模擬授業と教育実習を通しての学生の「体育の授業における知識」はいかに発達するか: リフレクションの内容に着目して. 体育科教育学研究, 37(1): 1-15. (査読あり)
- 濱本想子(2021) 剣道を専門種目とする初任教师教育者のセルフスタディ: アスリートアイデンティティと教育者アイデンティティの連関. 名桜大学紀要, 26: 59-70. (査読あり)
- 岩田昌太郎・大城穂乃香・磯村美菜子・松本ミユ・村上遥菜・敖敦其其格・濱本想子(2021) 子どもの「格差」問題へ「社会正義」を志向する保健体育はいかに貢献しうるか. 学校教育実践学研究, (27): 65-73. (査読なし)
- 中川麻衣子・濱本想子・敖敦其其格・辻亮太(2021) わが国の教育実習における特質と展開に関する歴史的検討. 日本教科教育学会誌, 43(4): 13-23. (査読あり)
- <学会発表等>
- 濱本想子・中川麻衣子・前田一篤・川口諒・岩田昌太郎(2022) 「各教科の指導法」(保健体育)の授業検討を通じた教師教育者の専門性開発—所属を超えた大学教員らによる協働的なセルフスタディー. 日本教科教育学会第48回全国大会, 2022年10月9日.
- Aodun Qiqige, Aiko Hamamoto and Shotaro Iwata (2021) Beginning Teacher Educators Learning Experiences as Guidance Advisors in Lesson Study on Physical Education. ATEE (Association of Teacher Education in Europe) 2021. Paper Session 2. 2021.9.10
- Kengo Kakazu, Shotaro Iwata (2021) Rethinking physical education teacher education curriculum in Japan: the perception of physical education teachers. AARE(Australian Association for Research in Education)2021 Conference. Poster Presentation.2021.11.28
- Jongsung Kim, Shotaro Iwata, Hiromi Kawaguchi, Nariakira Yoshida, and Lee Kim Eng Christine (2021) Teacher Educators' Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan. WALs(World Association of Lesson Studies)2021. Parallel Symposium Session. 2021.11.29
- 朝倉雅史・岩田昌太郎(2021) 自律的活用を促進する保健体育科教員の専門職基準に関する研究—NBPTS 策定基準の分析. 日本スポーツ教育学会第40回大会(WEB大会)

研究課題 【汎用的教師教育者育成プログラム】

上記の研究課題①②の解明に迫りながらも、日欧の先駆的な知見と比較検討を通して教師教育者育成プログラムの類型化や定型化について、その一端を策定した。その成果を以下の学会における招聘のシンポジストとして基調講演を実施した。

<学会の招聘>

- ・教師教育者の専門性開発と教師教育者研究を考える
日本教育工学会 SIG-TL 研究会 2022年12月13日 シンポジウム(招聘)
- ・体育教師教育者の専門性開発とその研究動向の探究への誘い
第67回 山口県体育学会大会 特別講演 2022年12月18日 シンポジウム(招聘)

以上の成果より、本研究の総括を以下の3点で整理することができる。総括「指導法に関する科目」に従事する教師教育者固有の悩みや葛藤の実態に迫り、それを乗り越えていくための Professional Learning Community (PLC) の重要性が明らかとなった。ただし、教師教育者の専門職としてのアイデンティティの変容については引き続き縦断的な調査が必要であった。総括②本研究独自のFD/授業研究をプログラム化する中で、さらに広範に参加できる専門性開発の方策を議論する必要がある。総括③日欧との比較検討に関しては、文献調査が中心となり(コロナ禍の影響)、引き続き、欧州との教師教育者育成プログラムの比較検討が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 岩田昌太郎・大城穂乃香	4. 巻 70(3)
2. 論文標題 保健体育教師の社会正義論入門	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岩田昌太郎・嘉数健悟	4. 巻 71
2. 論文標題 小学校体育にみる教科書の不在（特集 教科書の中の体育・スポーツ）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 体育の科学	6. 最初と最後の頁 694-698
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 敖敦其其格・岩田昌太郎・濱本想子	4. 巻 44
2. 論文標題 外国人研究者は日本の授業研究の観察から何に気づきどのように学ぶのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 23～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18993/jcrdajp.44.1_23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岩田昌太郎・橋本真・柴山慧	4. 巻 43
2. 論文標題 「ポストコロナ社会」における保健体育の意義や課題に関する調査研究：A 県の商船高専を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島商船高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田昌太郎・大城穂乃香・磯村美菜子・松本ミユ・村上遥菜・教敦其其格・濱本想子	4. 巻 27
2. 論文標題 子どもの「格差」問題へ「社会正義」を志向する保健体育はいかに貢献しうるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石智也・岩田昌太郎・齊藤 一彦	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 ウガンダ共和国における授業研究を用いた体育教員研究会の効果の検討：New World Kirkpatrick Modelを適用した研修評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 125-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5432/jjpehss.19085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 濱本想子・岩田昌太郎・齊藤一彦	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 体育科教育実習生の「授業における知識」の特徴と変容に関する事例研究：協議会でのリフレクションに表出する「授業における知識」に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 53-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5432/jjpehss.19020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Aodun Qiqige, Aiko Hamamoto and Shotaro Iwata
2. 発表標題 Beginning Teacher Educators Learning Experiences as Guidance Advisors in Lesson Study on Physical Education.
3. 学会等名 ATEE (Association of Teacher Education in Europe) 2021. Paper Session 2.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kengo Kakazu and Shotaro Iwata
2. 発表標題 Rethinking physical education teacher education curriculum in Japan: the perception of physical education teachers.
3. 学会等名 AARE(Australian Association for Research in Education)2021 Conference. Poster Presentation.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jongsung Kim , Shotaro Iwata, Hiromi Kawaguchi, Nariakira Yoshida, and Lee Kim Eng Christine
2. 発表標題 Teacher Educators' Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan.
3. 学会等名 WALS(World Association of Lesson Studies)2021. Parallel Symposium Session.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朝倉雅史・岩田昌太郎
2. 発表標題 自律的活用を促進する保健体育科教員の専門職基準に関する研究 NBPTS策定基準の分析
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第40回大会(WE B大会)
4. 発表年 2020年～2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Kusahara K. and Iwata S.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge (Oxon & New York)	5. 総ページ数 198
3. 書名 Teacher Educators and their Professional Development; Learning from the Past, Looking to the Future. Ruben Vanderlinde, Kari Smith, Jean Murray & Mieke Lunenberg(eds.)	

1. 著者名 Jongsung Kim, Nariakira Yoshida, Shotaro Iwata and Hiromi Kawaguchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 220
3. 書名 Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese Approach in Global Settings	

1. 著者名 岩田昌太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 170
3. 書名 ポスト・コロナの学校教育 教育者の応答と未来デザイン	

1. 著者名 岩田昌太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 創文企画	5. 総ページ数 143
3. 書名 体育授業のすゝめ	

1. 著者名 岩田昌太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 148
3. 書名 体育科教育学研究ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齊藤 一彦 (Saito Kazuhiko) (60413845)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	関 耕二 (Seki Koji) (30508007)	鳥取大学・地域学部・准教授 (15101)	
研究分担者	嘉数 健悟 (Kakazu Kengo) (50612793)	沖縄大学・人文学部・准教授 (38002)	
研究分担者	白石 智也 (Shiraishi Tomoya) (00881822)	広島文化学園大学・人間健康学部・助手 (35412)	
研究分担者	濱本 想子 (Hamamoto Aiko) (10879836)	名桜大学・健康科学部・助教 (28003)	
研究分担者	川口 諒 (Kawaguchi Ryo) (90825043)	長崎純心大学・人文学部・講師 (37302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関